

俊足川島大暴れ

△ヤマハ発動機硬式野球クラブ▽接戦の末、準決勝進出。勝利の立役者は俊足好打の八番打者・川島真二(24)だった。4-4で迎え

▽1回戦	浜松ナポズ	30000000	0
	富士クラブ	01200034	103
(秀) 藤原一岩谷			
(豊) 古川一望月			
(豊) 古川一望月			
(豊) 古川一望月			

今季初戦爆勝

△富士クラブ▽練習試合を含め、この試合が今季第1戦。12四球を出した相手投手の乱調にも助けられ、10-3で七回コールド勝ち。「打てなかった。でも最初の試合はこんなもん」と上(ねがみ)克己監督(52)。河合榮幸と対戦するきょう19日の2回戦は元本田技研の本佐野雅哉(26)を先発に立て金星を狙う。

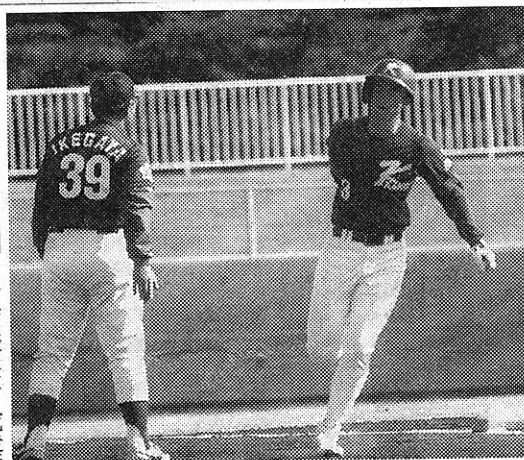
関自エコーレド発進

社会人野球県春季大会

▽2回戦(18日 準球場)	エースコンクラブ	00001000	0
	関東自動車工業	30001211	100
(工) 市野、栗田一望月			
(関) 樫、伊敷一辻			
(関) 樫、伊敷一辻			
(関) 樫、伊敷一辻			

社会人野球県春季大会は18日、富士球場で3試合を行い、企業チームの先陣を切って登場した関東自動車工業はエースコンクラブに10-0で6回コールド勝ちした。きょう19日はスポニチ大会8強のヤマハ、河合

楽器の2強がそれぞれ中電硬式野球クラブ、富士クラブと対戦する。実力差のあるクラブチームを相手に5回コールド勝ちのはずが、関自エコーレドの池谷勝監督(56)にとっては予想外の長期戦だった。「コールドになるのが遅い。徐々にはよくなっているが、今のところほしんどいかな」2回戦を戦いながらも頭の中はヤマハ、河合楽器のいづれかとの対戦が予想される決勝戦のこと。不満の残る今季の滑り出しとなった。そんな中での光明は主砲



△関東自動車・エースコンクラブ>初回、先制3ランを放った関東自動車・佐々木

▽高	ヤマハ発動機硬式野球クラブ	01100020	010
	静岡硬式野球倶楽部	00000300	1000
(高) 鈴木佳、丸尾、新井			
(高) 鈴木佳、丸尾、新井			
(高) 鈴木佳、丸尾、新井			

た八回表には1死走者なしから右翼線二塁打で出塁し、50分6秒0の快足を生かして三盗に成功。高森の中儀飛で決勝のホームを踏んだ。今大会は2試合にフル出場し、5打数5安打3打点4盗塁の大暴れだ。

関自エコーレドへ雄叫び 33歳樫技巧派で斬る

◇社会人野球県春季大会◇

静岡硬式野球倶楽部	18日11:00	決勝 20日午後1時
ヤマハ発動機硬式野球クラブ	17日9:00	
陸上自衛隊富士学校野球クラブ	20日9:00	決勝 20日午後1時
エースコンクラブ	17日11:00	
ゲッツベースボール倶楽部	18日13:00	決勝 20日午後1時
関東自動車工業	18日13:00	
ヤマハ	19日10:00	決勝 20日午後1時
フジウン野球クラブ	17日13:00	
中電硬式野球クラブ	20日11:00	決勝 20日午後1時
浜松ウナボンズ	18日9:00	
富士クラブ	19日12:00	決勝 20日午後1時
河合楽器	19日12:00	

※会場はすべて富士球場

☆紙面編集 渡辺 俊介

きょうから社会人野球県春季大会

社会人野球県春季大会はきょう17日から4日間、富士市の富士球場で12チームが参加して行われる。今大会には今オフに投手2人を補強した関東自動車工業が出場。スポニチ大会に参戦中のヤマハ、河合楽器の県2強にどこまで迫れるか、注目される。

今季の関自エコーレドは須賀貴文(22)と小西酒造、北村高士(18)と日高高の2投手を新戦力に加えた。特に須賀は社会人5年目の即戦力右腕。池谷勝監督(56)が「立て直しが必要」という投手陣の坎フル剤となっている。その須賀に刺激を受けているのはチーム最年長右腕・樫友陽(いちい・ともはる)と富山一高の2度

の右ひし手術を乗り越えて

・佐々木正臣(24)は筑陽学園高の活躍。初回の先制3ランを含む4打数3安打、3打点と四番の重責を果たした。ヤオハンから関自エコーレドに移籍して3年目。ヤオハン時代には2度、河合楽器を破った経験を持つ貴重な存在だ。いつも練習していたことが出せたとい

う感じ」と今季から取り組んでいるセンター返し。打撃が好結果を生んでいる。企業チームながら関自エコーレドは昨秋、業務のため約3カ月間、野球から離れていた。調整の遅れを取り戻そうとそれぞれが懸命の努力を続けている。(石川 勝己)

昨年復活。今年で社会人15年目、6月には33歳になるが、現役へのこだわりは人一倍だ。現在、ストリートは130分前後と往年の球威はないが、昨年チェンジアップを習得し、投球の幅を広げた。池谷監督も「春季大会の初戦(18日)は樫を先発で」と大きな期待を寄せている。「今季の目標は全国大会のマウンドを踏むこと」と。過去、90年都市対抗、92年日本選手権で全国大会を経験しているが、出場機会はなかった。ここ数年は1年々々が背水のシースン。樫の今季に懸ける思いは強い。(石川 勝己)